



チェーンソーなどの実技から座学により
森林の構造まで学べる「林業のススメ」

みやがわ森選組は、山・川・自然をキーワードに都市農山村交流を中心に活動する森林ボランティア団体。過疎・高齢化等により、失われつつある豊かな自然環境や歴史ある農山村文化を守り伝えていくため、地域の活性化を図ることを目的として活動しています。

災害を契機に豊かな山村づくりへ

みやがわ森選組は、平成16年、三重県宮川村(平成18年の合併により、現在は大台町)を襲った台風21号の豪雨による土石流災害を契機に活動を開始しました。

旧・宮川村は上流域に日

流の人々や生き物たちにも責任がある」という思いを基に、豊かな山村づくりをめざしています。

メンバーの大半が林業従事者で、林業作業士資格を持っており、都市から移り住んで定住したアイ・ターン者が多いのも特徴のひとつ。その経験から生まれる視点を活かした活動を展開しています。

都市と農村の交流活動

みやがわ森選組の主な活動は、森林・河川・農地を利活用した「都市農山村交流」。都市と農山村それぞれに住む人々が地域の魅力を分かち合い、人・モノ・情報の行き来を活発にすることで、地域の活性化や放棄山林活用、生態系保全、遊休農地回復などへの貢献をめざしています。

そのひとつが、林業に真剣に取り組みたい人を対象とし

本三大渓谷のひとつとされる大杉谷を抱え、もともと雨の多い土地でしたが、平成16年の豪雨はそれまでにない規模の被害をもたらしました。「山を強くする事が防災のひとつの手段となる。豊かな生態系を作りだすことで山は良い水を川へ送り出し、海へと注ぐ。山間地に住む人間は同時に下

